

リ・ガーデン + 庭園アドバイザー

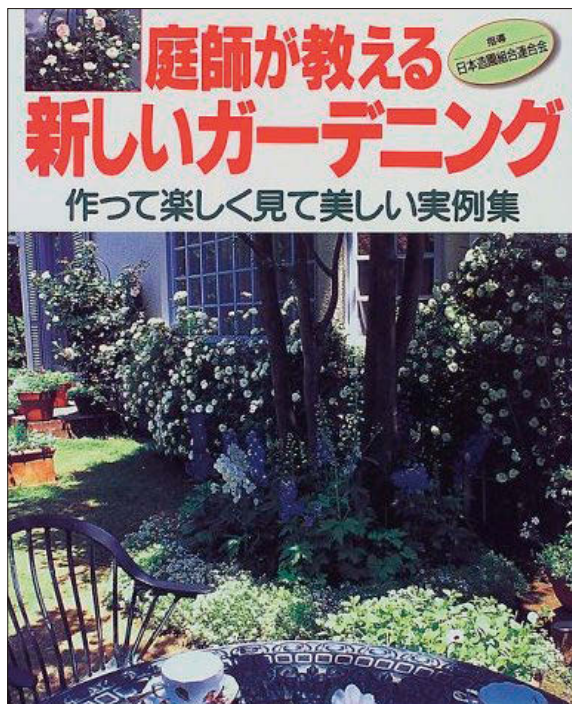
■リ・ガーデン

造語「リ・ガーデン」は、平成 11 年に造園連が監修し、講談社より発行された「庭師が教える新しいガーデニング」で初出した。既存の庭を暮らし方や住む人の変化に合わせて、庭を新しくする庭園改造を「リ・ガーデン」と名付け、庭の見直し機運を盛り上げ、新しい市場開拓を目指してさまざまな活動を行っている。高齢化にともなう「バリアフリーの庭づくり」、不用品を有効利用した「リサイクルの庭づくり」やライフスタイルに合わせた庭の楽しみ方などを提案し、民間需要の喚起と経営革新に向けて活用できる資料やリーフレットを作成した。

「リ・ガーデン」は、既存の材料を活かしながらデザインを一新し、顧客の求める庭園につくり替えるため、高度な庭園構成力が求められる。さらに、クレーンなどの機械が入らない場面が多く、場合によっては人力運搬やチェンブロックによる移動などが必要となるので、現場状況に合わせた見積もりや施工手順が必要となるなど、新規造園工事とは異なる技術が必要とされるが、今後ますます需要が高まってくるだろう。



『リ・ガーデンリーフレット』
(平成 18 年発行 / A4 判両面)



『庭師が教える新しいガーデニング』
(平成 11 年 4 月 8 日講談社発行 / ワイド判 119 ページ)



『リ・ガーデンのすすめ』
(平成 14 年 3 月 25 日発行 (絶版) / A4 判 58 ページ)

■庭園アドバイザー認定研修会

素晴らしい技術・技能を保持し、現場の仕事には自信があるがお客さん相手の交渉や営業が弱い…、良いアイデアはあるのだがお客さんにうまく伝えられないなどといった悩みを抱える組合員を対象に、お客様への提案営業力や伝達力を養成し、潜在的な民間庭園のニーズの掘り起こしや「リ・ガーデン」の促進を目的に生まれたのが「庭園アドバイザー」である。

2日間の研修では、ある条件に基づいて事前に作成した図面や提案内容をもとに、アイデア発想の技術、お客様への提案営業力（コミュニケーション技術）やプレゼンテーション技術を磨き、最終日には自らの提案を受講生の前で披露する内容となっている。

平成24年度までに345名が認定され、その認定者名簿は造園連ホームページ内で公開している。



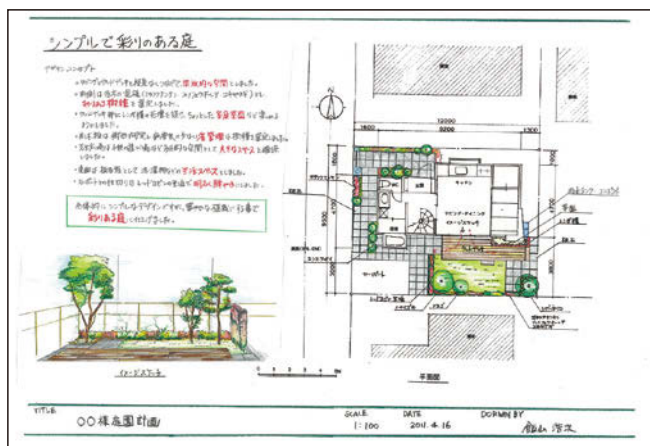
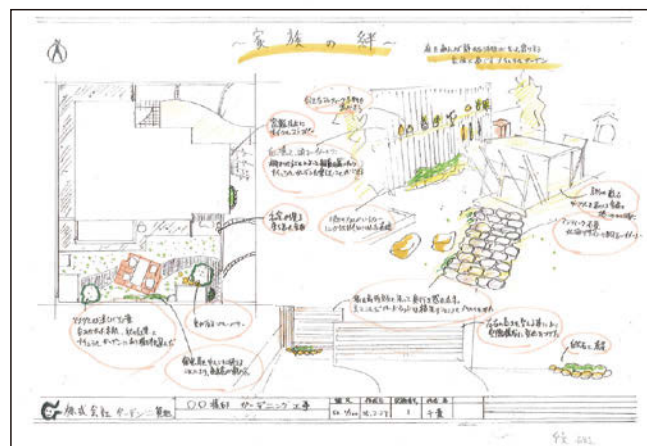
【講師】

小沼康子氏（㈲エルムランドスケープデザイン）
本田逸男氏（株西条庭園、造園連参与）
井上花子氏（造園連理事・事務局長）



【実施報告】

○トライアル研修／平成21年3月21日～22日
○平成22年度開催／山口県支部（平成22年9月10～11日）|愛知県・岐阜県支部合同（平成22年9月28～29日）|佐賀県支部（平成22年11月25～26日）|福井県支部（平成23年2月8～9日）|東京都支部（平成23年3月19～20日）
○平成23年度開催／関西ブロック（平成23年4月16～17日）|四国ブロック（平成24年1月21～22日）|富山県支部（平成24年2月17～18日）|長野県支部（平成24年3月3～4日）
○平成24年度開催／大分県支部（平成24年9月8～9日）|長崎県支部（平成24年11月21～22日）|福岡県支部（平成24年11月26～27日）|静岡県支部（平成25年1月21～22日）|岡山県支部（平成25年1月27～28日）|鳥取県支部（平成25年2月5～6日）|宮城県支部（平成25年2月26～27日）



ものづくり立国 ～次世代フェスタ、大航海フェア～

平成 21 年度「ものづくり立国・日本」次世代フェスタ

■開催日／平成 22 年 3 月 20 日～ 21 日

■開催地／パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）

■内容／次世代を担う若年者（小中高生）に、ものづくりの魅力や楽しさを知ってもらい、ものづくりの人材育成につなげようと厚生労働省が主催するイベントである。会場には様々な技能職種の団体等がブースを出展する中、造園連は、庭づくり実演とシュロバツづくり教室などを行った。庭づくり実演では、技能五輪国際大会（日本大会、カナダ大会）出場選手 4 名が「思い出ガーデン」（5 m×5 m）を作庭した。目の前で庭が出来上がる様子に、多くの来場者が足を止めて熱い視線を送り、来場者アンケートでは一番印象に残る職種として人気を集めた。



平成 22 年度「ものづくり立国・日本」次世代フェスタ

■開催日／平成 23 年 1 月 15 日～ 16 日

■開催地／ビッグサイト（東京都江東区）

■内容／前年に続く出展で、会場は東京のビックサイトで行われた。会場では、東京都支部青年部並びに宮城県支部青年部が中心となって庭づくりの実演と、シュロバツづくり体験コーナーを実施した。庭づくり実演では女性技能士 4 名が「ふるさとのお正月」を作庭。雪吊りをメインに、ミノボッチやワラボッチなどを配し、砂岩の石貼りは「若人の飛躍」をイメージした。干支の「兎」の形に仕上げた。その他にもイベントブースではカルガリー大会出場選手の石井志郎氏と白石勇人氏のトークセッションも行われた。



平成 23 年度ものづくり立国「ものづくり大航海フェア」

■開催日／平成 24 年 2 月 18 日～ 19 日

■開催地／神戸国際展示場（兵庫県神戸市）

■内容／23 年度は会場が兵庫県の神戸国際展示場になり、造園連はコンコース中央の誰もが通る一番良い区画を割り当てられ、4 m×3 m の区画で庭づくり実演を行った。庭園は、竹で編んだ舟が神戸港から出港し、御影石の白波が立つ砂利の大海原を進む景を表現したデザインで、船のマストにはシマトネリコ、遙か彼方に見える緑の島には、コケと草花を植栽した。港の護岸は砂岩の小端積みで表現した。その他シュロバツづくり体験コーナーや竹細工の実演展示を実施。最終日の午後、技能五輪ロンドン大会敢闘賞に入賞した藤崎賢博氏と猪野直樹氏がステージイベント「若き技能者によるトークショー」に出演した。



庭の日制定



「庭の日」電車窓上広告（平成 23 年度）

国営昭和記念公園に代表されるように、緑をこよなく愛された昭和天皇の誕生日である4月29日が「みどりの日」（平成元～18年。平成19年から5月4日）として制定され、「みどりの」普及と啓発をおこなう、春の緑化推進運動の中心的な日とされてきた。

造園連では、その前日である4月28日を「よいにわ」の語呂合わせで「みどりと共に自宅の「庭」をもっと見つめ直す日にしよう。」という機運が盛り上がり、2002年（平成14年）の総会で4月28日を「庭の日」に制定することが承認され、同年7月には日本記念日協会に登録を行った。

以来4月28日前後には、各地で開催される緑化祭などで、青年部層が中心となって「庭の日」と造園業界をPRするイベントが開催されるようになり、本部ではその活動を支援するための広報用品を希望する支部に配布している。

対外メディアを使った「庭の日」の広報活動

一般財団法人建設業振興基金が実施する「建設産業振興活動事業特別緊急支援助成金事業」を活用した対外広報活動は、不特定多数の市民に「庭の日」と造園連をPR出来るよう、電車内や駅中の広告、ラジオCM、雑誌などへの告知記事の掲載などを行った。

年度を追った詳細は次の通り。

●平成22年度（平成23年の庭の日用の事業）

初年度は、鉄道の窓上広告となった。

告知のターゲットとするのは、これから顧客になって頂けそうな比較的新興住宅地を通り、なおかつ組合員もいる地域を検討し、東京、神奈川、千葉、埼玉の1都3県をカバーする小田急線、半蔵門線、JR武蔵野線の3路線の車内に広告を掲示した。

また掲示したポスターの縮小版を全組合員分作

成し、支部を通じて配布された。

●平成23年度（平成24年の庭の日用の事業）

2年目の「庭の日」対外広報活動は、関西の基幹となる主要6駅に「庭の日」のポスター掲示とラジオCMの2本立てで行うこととなった。

ラジオCMは東京の文化放送をキー局に北海道から沖縄までの全国34局を網羅するラジオ番組「武田鉄矢・今朝の三枚おろし」の前後に20秒のCM(2パターン)を24年3月の土日を除く平日(計22日間)に放送した(放送局によっては番組内容と放送時間が異なる)。

また、関西の主要なJR駅6駅(京都、新大阪、大阪、京橋、天王寺、三ノ宮)にB1サイズのポスターを1週間掲示した。

●平成24年度（平成25年の庭の日用の事業）

最終年度は、雑誌への「庭の日」の意見広告掲載とマスコットキャラクターの庭丸を使ったPRステッカーを作成した。

雑誌への「庭の日」の意見広告掲載は、住宅庭園のユーザーとして実質的な決定権を持つ「家庭の主婦」をメインターゲットに捉え、中～高齢層の女性が主な購読層である雑誌(全国誌)に「庭の日」と造園業界のPRするための意見広告を次の4誌に掲載を行った。

☆生活実用情報誌

・レタスクラブ…3月10日発行号に掲載

・オレンジページ…3月17日発行号に掲載

☆ガーデン系専門誌

・園芸ガイド…3月8日刊行

・小さくてもおしゃれな庭 デザイン実例集…2月19日刊行

また、「庭の日」PRのためのステッカーの作成については、日常業務で使用する車両に貼付するステッカーを作成し、全組合員に配布した。



新・「庭の日」 幟旗



新・造園連の幟旗



「庭丸」ステッカー

【雑誌への掲載】



生活実用情報誌用画像



「オレンジページ」掲載（平成 25 年）



「レタスクラブ」掲載（平成 25 年）



専門誌用画像



「園芸ガイド」掲載（平成 25 年）



「小さくてもおしゃれな庭」掲載（平成 25 年）

ジャパン庭園マイスターズ、庭丸

■愛称募集、イメージキャラクター募集

庭のプロ集団である造園連を知ってもらい、造園の魅力をもっと広く社会に認知してもらう活動として、平成20年度に造園連の愛称を募集した。全国4,050件の応募の中から「ジャパン庭園マイスターズ」が採用され、ロゴマークを作成し、商標登録を行った。

庭の日の広報用品としてロゴマークの入ったクリアファイルを製作したほか、「ジャパン」の部分を各都道府県名に替えたロゴも作成し、支部のロゴとして自由に活用できるようになっている。

次いで平成23年度には、青年部の提唱により造園連のイメージキャラクターの募集を行った。雑誌「公募ガイド」などを通じて、全国から839通の応募作品が集まり、その中から「庭丸（にわまる）」が選ばれた。庭の日などイベントで、子どもたちの手にとってもらえるようステッカーを作成したほか、雑誌広告やリーフレットなどで愛らしさを添えている。



「ジャパン庭園マイスターズ」ロゴ



「庭丸」石のレリーフ

【愛称募集】

■募集期間

平成20年11月1日（土）～平成21年1月20日（火）

■応募件数／4,050件

■入賞者／田名瀬新太郎氏（静岡県）

■大賞／10万円1名（愛称採用者）

■造園連賞／庭のたね100名（応募者全員の中から抽選）

■審査／平成21年2月2日

■発表／平成21年4月28日

■審査員／涌井雅之氏（造園家・桐蔭横浜大学特任教授・中部大学教授）、八木波奈子氏（雑誌BISES編集長）、高取忠彦氏（造園連理事長）

【イメージキャラクター募集】

■募集期間／平成23年1月9日（日）～2月28日（月）

■応募件数／839件

■入賞者／戸野真祐氏（兵庫県）

■最優秀賞／10万円

■審査／青年部による第1次審査、企画・事業委員会による第2次審査、平成23年4月25日（月）最終審査発表／入賞者に通知

■審査員

【審査委員長】戸田芳樹氏（株）戸田芳樹風景計画

【審査員】小沼康子氏（㈲エルムランドスケープデザイン）、白井昇氏（造園連理事長）、谷尾喜次氏（造園連副理事長、企画・事業委員長）、荻原博行氏（造園連副理事長、企画・事業副委員長）、阿部浩章氏（企画・事業専門委員）、橋本匡史氏（造園連青年部長）、企画・事業委員会、造園連青年部

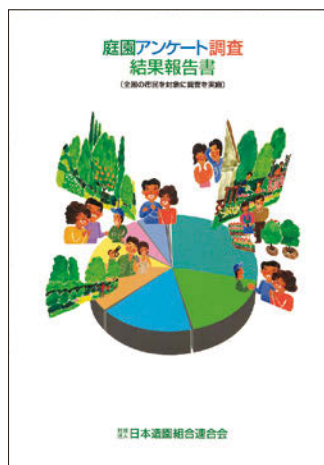
刊行物

【パンフレット・リーフレット】



『リガーデンのすすめ』

A4 判 58 ページ／平成 14 年 3 月 25 日発行（絶版）
リガーデンの概要やアイデア、地域の緑と花の提案ができる造園技能者になるためのステップをわかりやすく編集



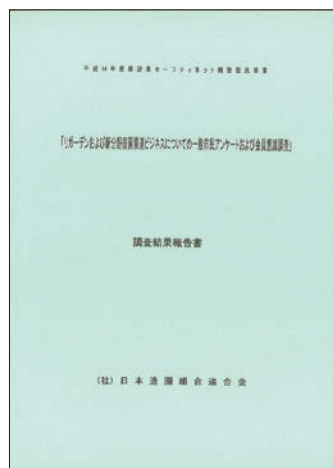
『庭園アンケート調査結果報告書』

A4 判 15 ページ／平成 14 年 3 月発行（絶版）
庭園や造園業者に対する意識を全国の市民を対象にアンケート調査報告



『造園新カタカナ用語辞典』

A5 判 111 ページ／平成 14 年 1 月 7 日発行（絶版）
ガーデニングや環境関連の用語など新しい技術をまず言葉から理解するための辞典



『リガーデンおよび新分野庭園関連ビジネスについての一般社団法人市民アンケートおよび会員意識調査』
A4 判 32 ページ／平成 15 年 3 月 25 日発行（絶版）
これからの庭づくりや新分野進出を目指すための一般市民の庭に対する意識調査報告



『緑化工事の施工・維持管理「造園技能士」』
A4 判 22 ページ／平成 15 年 3 月 1 日発行（絶版）
造園工事の特徴や造園技能士についての基本的な情報提供を目的に発行



『これからの造園業 経営のヒント』
B5 判 30 ページ／平成 16 年度発行（絶版）
経営および提案のヒントとなるような事例集



『庭師の手ほどき』

B5 判 20 ページ／平成 16 年 3 月 20 日発行（絶版）
時事通信社の配信により地方新聞各紙に連載された『庭師の手ほどき』に加筆し、まとめたもの



『庭の日』リーフレット

A4 判 1 ページ両面カラー／平成 16 年度発行
4 月 28 日「庭の日」を PR。庭の楽しみ方を考える日に



『造園業の人材育成と経営』

A4 判 21 ページ／平成 17 年 3 月発行（絶版）
人材育成の参考に、経営者の座談会、人材育成のヒント、モチベーションについて盛り込んだ報告書



(オモテ)



(ウラ)



『小庭園プラン集』

A4判 109 ページ／平成 17 年 10 月 1 日発行
お客様に見て頂きながらお話しできる、多彩な庭のプラン集



(オモテ)



(ウラ)

『「リ・ガーデン」リーフレット』

A4判 1 ページ両面カラー／平成 16 年度発行
住む人にあわせた庭づくり「リ・ガーデン」をご提案



『「緑の効用」パンフレット』

A4判 12 ページ カラー／平成 18 年度発行
庭から広がる環境保全や快適な生活など、緑がもたらす多彩な効用を紹介

『小庭園プラン集Ⅱ
「プロと作るあなたのための庭 40 選」』

A4判 95 ページ／平成 19 年 3 月発行
お客様への提案と提案型企業へ向けた参考資料



『いま散布できる…農薬読本』

A5判 30 ページ カラー／平成 19 年 5 月 18 日発行 (絶版)
樹木に使える農薬の情報を、現場でも使用できるようコンバクトに編集



『「元気がでる庭」パンフレット』

A4判 16 ページ カラー／平成 19 年度発行
高齢化社会にも対応した多彩な庭の楽しみ方をご紹介



『高齢化社会における庭の維持管理 10 の提言』

A4判 15 ページ カラー／平成 21 年度発行
高齢者の豊かなガーデンライフのサポートをより現実的なものにするための 10 の提言



『現場で働く女性が活躍できる造園業を目指して』

A4判 14 ページ カラー／平成 21 年 3 月発行
女性技能者による座談会やアンケート、事業所での活用事例をまとめた報告書

【パンフレット・リーフレット】



『一般向け「造園技能士」リーフレット』

A4 判見開き 4面 カラー／平成 21 年度発行
技能士ならではの庭づくりの紹介や維持管理請負制のすすめ



『官公庁・発注者向け「造園技能士」パンフレット』

A4 判 24 ページ カラー／平成 22 年 3 月 10 日発行
造園技能士についての基本的な情報を掲載。技能士の現場
常駐化の要望活動に活用を



『造園技能士が提案する四季の庭づくり』

A4 判見開き 8面 カラー／平成 22 年 3 月発行
四季を通じて庭を美しく保つ方法や庭木の花ごよみ、おす
すめの庭園デザイン、樹木を掲載



『造園初級技能の手引』

A4 判 54 ページ／平成 23 年 3 月 10 日発行
初級技能者向けの基本技能をとりまとめて、実技作業に重
点を置いて、若手初級技能者が学ぶべき技能、作業のポイ
ントを解説



『人力による運搬組立て工法の手引』

A4 判 21 ページ／平成 24 年 3 月 10 日発行
工法や道具の紹介、作業のポイントをわかりやすくとりま
とめて解説



『造園工具ガイドブック』

A4 判 55 ページ／平成 24 年 3 月 10 日発行
造園に必要な工具について、名称、使い方を写真や図版と
ともに分かりやすく解説

【書籍】



『「緑のチカラ」パンフレット』

A4 判 8 ページ／平成 24 年 6 月発行
1本の樹木を増やすことが、節電や地球温暖化防止に貢献
し、災害防止にもつながる緑のチカラを紹介



『庭木の剪定コツとタブー』

著／日本造園組合連合会
B6 判 237 ページ／講談社／平成 8 年 10 月 15 日発行
花木や果樹など 80 種の剪定に関するコツとタブーを紹介

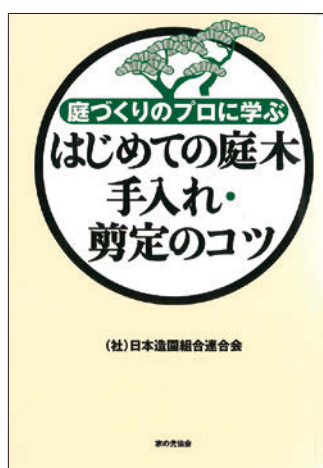


『庭師が教えるベランダで楽しむ「庭」づくり』

著／小杉左枝 (社) 日本造園組合連合会
B6 判 256 ページ／河出書房新社／平成 17 年 9 月 30 日発行
園芸の基礎知識から、ベランダを「庭」に変身させる失敗
しないテクニックを紹介



『庭師が教えるもう失敗しない「小さな庭」づくり』
著／井上花子（社）日本造園組合連合会
B6判 255ページ／河出書房新社／平成17年10月21日発行
庭を広く見せる設計法、植物の選び方、育て方、手入れなど、12プランを紹介



『庭づくりのプロに学ぶ はじめての庭木 手入れ・剪定のコツ』
著／（社）日本造園組合連合会
B6判 207ページ／家の光協会／平成20年1月1日発行
庭木の基礎知識と樹種ごとの手入れ・剪定のノウハウを詳述



『ベテラン庭師が教える庭いじりの楽しみとコツ』
編著・高取忠彦（社）日本造園組合連合会
B6判 287ページ／淡交社／平成20年3月23日発行
和の庭を楽しむ基本から、庭づくりのポイントや管理をアドバイス



『ビジュアル版 庭師の知恵袋』
編／（社）日本造園組合連合会
B5変型判 191ページ／講談社／平成20年11月21日発行
ベストセラー「庭師の知恵袋」をカラーでより分かりやすく



『ポケット版 庭師の知恵袋』
編／（社）日本造園組合連合会
A6変型判 253ページ／講談社発行
人気の樹種約60種を紹介。ロングセラー「名人庭師とっておきの知恵袋」を文庫化



『ポケット版 名人庭師 果樹の知恵袋』
著・井上花子（社）日本造園組合連合会
A6変型判 222ページ／講談社／平成22年3月20日発行
食べておいしい、観て楽しい。小さな庭やベランダでも楽しめる果樹の育て方を伝授。「庭師の知恵袋 花も実も楽しむ庭づくり」を文庫化



『必携 寺院の作庭全書』
著・白井 昇 日本造園組合連合会
A5判 339ページ／興山舎発行
寺院向け月刊誌「寺門興隆」に4年間にわたって連載してきた「自然の説法・お寺の庭造り」を単行本化



『浜名湖花博 大賞受賞庭園「家族が集うやすらぎの庭」』
（社）日本造園組合連合会
DVD 70分／平成17年制作／施工図面集・花博出展報告書付
2004年浜名湖花博でパンフィックフローラ大賞を受賞した造園連出展庭園の施工の全てを収録



『石積みの技法』
（社）日本造園組合連合会
DVD 33分／平成23年制作／基本用語集付
石の選び方、加工のコツ、表情の出し方など、石積みの技法ポイントをわかりやすく解説

造園技能検定

技能検定は、働くうえで必要とされる技能の習得レベルを、国が評価する検定制度。職業能力開発促進法に定められた国家検定で、合格すると技能士として合格証などが交付される。平成25年現在128職種の試験が実施されている。

造園技能士は、技能検定の1職種として昭和48年度より始まり、1級と2級の試験が毎年実施されてきた。平成6年度からは高等学校や専門学校在学中に受検が可能な3級が創設され、平成24年まで1～3級合わせておよそ12万人の技能士が誕生している。

造園連では技能検定制度の推進にむけて、中央検定委員の派遣や都道府県の検定委員・補佐員の多くを組合員が務

めるなど制度運営のサポート、講習会の開催・受験対策テキスト類の作成を通して受検生への支援を行うなど、組合創立当初より今日まで技能検定試験に関わる様々な取り組みを続けている。

また、造園技能士は専任技術者や主任技術者として認められており、現場常駐制度においても、鳥取県や和歌山県など各地で活用が行われている。多岐にわたる造園の技術を臨機応変に使いこなせる造園技能士が果たす役割は大きく、平成25年度より1級造園技能検定実技試験（作業試験）で、剪定作業が新たに導入されることになり、技能士の評価のさらなる高まりや制度の活性化が期待されている。

1級実技試験（作業試験）主な変遷

昭和48年	ペーパーテスト（3時間）＋作業試験。区画3.6m×2.1m。建仁寺垣、つくばい、飛石、延段 標準時間6時間
昭和49～51年	区画3m×2m。建仁寺垣、つくばい、飛石、延段 標準時間3時間
昭和52～57年	区画3m×2m。竹垣、つくばい、飛石、延段 標準時間3時間（要素試験加わる）
昭和58年～平成4年	区画3m×2m。竹垣、つくばい、飛石、支柱 標準時間3時間
平成5年～10年	区画3m×2m。竹垣、つくばい、飛石、延段、支柱 標準時間3時間
平成11年～24年	区画3m×2m。竹垣、つくばい、飛石、延段、自由ゾーン（景石、植栽）。標準時間3時間
平成25年～	区画2.5m×2m。竹垣、つくばい、飛石、延段、自由ゾーン（景石、植栽）、透かし剪定。標準時間3時間

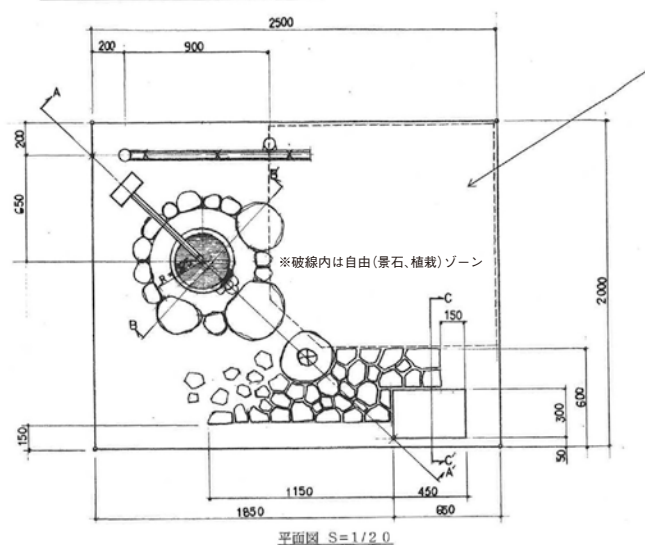


【上】平成11年度より、自由ゾーン（景石、植栽を指定区域内に自由に配置する作業）が1級実技課題に導入された

【右】平成25年度より大幅に改定される1級実技課題。剪定作業も導入される。図面は平成24年11月のトライアルで使用された試行試験課題。正式な実技課題は平成25年5月29日に公表される

※試行試験課題

1級造園施工図（単位：mm）



2 級実技試験（作業試験）主な変遷

昭和 48 年	ペーパーテスト(2 時間)+作業試験。区画 3.6m×2.1m。四ツ目垣、園路縁石・飛石、芝張り。標準時間 5 時間
昭和 49～51 年	区画 2.4m×2m。四ツ目垣、縁石、飛石。時間 2 時間 30 分
昭和 52～57 年	区画 3m×2m。四ツ目垣、縁石、飛石。時間 3 時間（要素試験加わる）
昭和 58～62 年	区画 3m×2m。四ツ目垣、縁石、飛石、支柱。標準時間 3 時間
昭和 63 年～平成 7 年	区画 3m×2m。四ツ目垣、縁石、飛石、支柱。標準時間 3 時間
平成 8 年～平成 22 年	区画 3m×2m。四ツ目垣、縁石、飛石、敷石、低木植栽、支柱。標準時間 3 時間
平成 23 年～	区画 2m×2.5m。四ツ目垣、縁石、飛石、敷石、築山、植栽。標準時間 2 時間 30 分



平成 8 年度～22 年度まで実施された 2 級造園実技課題



23 年度より大幅改定され、2 脚鳥居支柱がなくなった 2 級造園実技課題

3 級実技試験（作業試験）主な変遷

平成 6 年～17 年	区画 2m×1.5m。竹垣、縁石、敷石 標準時間 2 時間
平成 18 年～	区画 2m×1.5m。竹垣、縁石、敷石、植栽 標準時間 2 時間



平成 6～17 年度まで実施された 3 級実技課題



18 年度より現在まで実施されている 3 級実技課題

技能士の評価活用事例

入札参加資格等における造園技能士の活用

【宮城県】

工事の品質確保等を目的として、1 級、2 級技能士を常駐雇用している企業に対し、入札参加評価において、以下の加点評価を導入した（平成 21 年）。各技能士の常時雇用人数に対して 1 級技能士：1 人あたり 2 点、2 級技能士：1 人あたり 1 点（上限 30 点）。

【佐賀県】

入札参加資格評価において技術等評価点数の加算点項目に技能士の項目を追加。加算点は次のとおり（平成 19 年）。1 級技能士：1 人あたり 5 点、2 級技能士：1 人あたり 2 点（上限 30 点）。

【三重県】

伊勢市では公園樹木及び街路樹剪定の業務について、参加資格要件で求める配置技術者を従来の造園施工管理技士に加えて、造園技能士（1 級）の資格も参加可能とする変更を行った（平成 19 年）。

現場常駐制度の実現

【鳥取県】

全国に先駆けて造園技能士の活用に取り組み、平成 14 年度より土木工事共通仕様書において樹木植栽工などにおける 1 級または 2 級造園技能士の常駐を義務づけている。



造園関連工事には 1 級及び
2 級造園技能士の常駐を義
務付け（鳥取県の通知書類）

【和歌山県】

平成 15 年 4 月 1 日より、和歌山県の土木工事共通仕様書に造園技能士の常駐が明記された。これにより和歌山県土木請負工事必携の中に「第 11 編 公園緑地編」が新設され、その中の「第 3 節 植栽」の第一に造園技能士の常駐が記述されている。

【山口県】

平成 21 年 7 月より、発注するすべての造園工事において植栽工や地被類植栽工、石組工、流れ工、池工を行う際には造園技能士を常駐させ、作業指導を行うことを義務づけた。

【福井県】

平成 21 年 4 月に施行された福井県中小企業進行条例では、（基本方針）第 7 条において技能士の活用がうたわれ、福井市が実施した競争入札において造園技能士の配置が条件とされるなど、具体的な案件で造園技能士の活用が進んでいる。

造園技能士合格者数（S48～H24年度）

	合 計 数			全 国 総 計
	1 級	2 級	3 級	
北海道	1,266	1,996	1,163	4,425
青 森	388	518	448	1,354
岩 手	330	552	404	1,286
宮 城	917	1,479	279	2,675
秋 田	396	499	170	1,065
山 形	498	944	213	1,655
福 島	656	1,071	222	1,949
茨 城	866	1,356	689	2,911
栃 木	589	546	279	1,414
群 馬	677	1,023	290	1,990
埼 玉	1,676	2,368	979	5,023
千 葉	1,098	1,792	672	3,562
東 京	2,153	3,416	1,910	7,479
神奈川	2,290	3,637	872	6,799
新 潟	765	1,477	870	3,112
富 山	874	1,306	681	2,861
石 川	622	910	655	2,187
福 井	406	551	123	1,080
山 梨	339	475	395	1,209
長 野	744	867	739	2,350
岐 阜	635	981	572	2,188
静 岡	1,363	2,527	346	4,236
愛 知	2,759	3,552	659	6,970
三 重	527	719	572	1,818
滋 賀	518	686	221	1,425
京 都	1,169	2,090	241	3,500
大 阪	1,425	1,928	748	4,101
兵 庫	1,476	1,914	452	3,842
奈 良	371	478	248	1,097
和歌山	447	345	12	804
鳥 取	302	608	399	1,309
島 根	271	549	405	1,225
岡 山	717	812	486	2,015
広 島	668	1,394	655	2,717
山 口	552	1,119	937	2,608
徳 島	260	318	265	843
香 川	315	490	171	976
愛 媛	440	746	130	1,316
高 知	287	326	52	665
福 岡	1,898	2,304	1,227	5,429
佐 賀	518	506	157	1,181
長 崎	392	457	252	1,101
熊 本	799	768	341	1,908
大 分	390	542	245	1,177
宮 崎	469	968	352	1,789
鹿児島	427	1,211	370	2,008
沖 縄	255	748	1,410	2,413
全国合計	37,200	55,869	23,978	117,047

登録造園基幹技能者

我が国の根幹を担う建設産業が健全な発展を続けるためには、公正かつ透明な競争原理が必要であり、このため平成7年に当時の建設省（現・国土交通省）では、市場構造と行政の仕組みをつくりだすことを狙いとした「建設産業政策大綱」が策定され、その中に基幹技能者の確保・育成が提言された。

この提言を具体化するために、翌平成8年7月には、「基幹技能者の確保・育成・活用に関する基本指針」が策定され、これを受け、造園業界では（社）日本造園組合連合会と（社）日本造園建設業協会が共同で運営委員会を組織して「技能開発計画」をまとめ、平成10年度から「造園工事基幹技能者※」認定制度をスタートさせた。（※後に「造園基幹技能者」と改称）

平成20年4月からは、建設業法施行規則の改正により、造園を含む専門工事業27職種が行う基幹技能者制度は国

土交通大臣の登録講習制度に移行し、名称も「登録基幹技能者」として再スタートすることになり、造園連と日造協は登録講習機関として「登録造園基幹技能者講習」を共同で実施することとなった。

両団体が実施する登録講習の修了者は、経営事項審査（経営）の技術者配点（Z点）で加点評価（3点）されるなど公的な評価も受けることになり、また、多くの地方整備局や地方公共団体において、総合評価方式で採用されるなど、徐々に公的な評価も高まってきている。

また、平成22年度には、東京都港湾局が発注する公園整備工事において、入札の参加条件に登録造園基幹技能者の常駐を義務づける案件が採用された。港湾局によると、大規模工事であり複数の工事が同時進行するため、卓越したマネジメント能力が求められるためとの説明であった。

【登録造園基幹技能者 登録講習のカリキュラム】

科 目	内 容	時間
1. 基幹技能一般知識に関する科目	基幹技能者のあり方	60 分
	OJT 教育に関する事項	60 分
	実務に役立つ話し方と関係者との調整方法	60 分
	造園のもののづくりの特性	60 分
2. 基幹技能関係法令に関する科目	関連法規に関する事項	60 分
3. 建設工事の施工管理、工程管理、資材管理、その他の技術上の管理に関する科目	施工管理・事務管理に関する事項	60 分
	工程管理に関する事項	60 分
	資材管理に関する事項	60 分
	原価管理に関する事項	60 分
	品質管理に関する事項	60 分
	安全管理に関する事項	60 分



講習修了証見本



講習修了者に配布される「登録造園基幹技能者ステッカー」



講習会風景

登録造園基幹技能者



現場で活躍する登録造園基幹技能者



現場で活躍する登録造園基幹技能者



新登録基幹技能者ポスター

登録造園基幹技能者数一覧

	登録 造園基幹技能者	旧 造園基幹技能者
北海道	132	155
青森	59	68
岩手	37	55
宮城	128	131
秋田	25	45
山形	41	51
福島	106	135
茨城	50	62
栃木	10	12
群馬	27	24
埼玉	63	75
千葉	18	9
東京	306	315
神奈川	68	90
新潟	90	115
富山	131	158
石川	92	126
福井	69	51
山梨	16	20
長野	71	110
岐阜	34	44
静岡	52	82
愛知	133	144
三重	28	29
滋賀	57	79
京都	166	199
大阪	133	136
兵庫	89	89
奈良	15	11
和歌山	14	13
鳥取	81	113
島根	42	60
岡山	17	14
広島	93	155
山口	98	105
徳島	27	42
香川	32	37
愛媛	44	52
高知	23	36
福岡	140	176
佐賀	81	98
長崎	55	80
熊本	55	72
大分	19	30
宮崎	20	47
鹿児島	15	22
沖縄	35	41
全国合計	3,137	3,813

日本、そして世界で輝く組合員（ガーデニングショー）

■第20回全国都市緑化おおいたフェア

平成15年4月28日～6月29日

【国土交通大臣賞】(有)御手洗造園（大分県）

作品タイトル「四季の庭園・和風庭園山水」

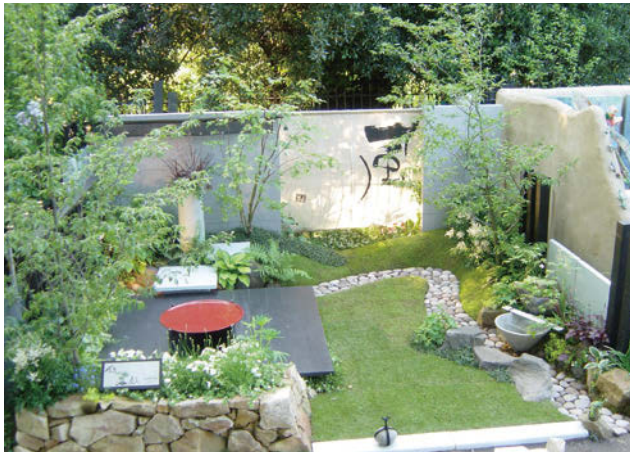


■切尔西フラワーショー 2004

平成16年5月24日～28日

【ベストシティーガーデン受賞】ガーデンデザイン 矢野 TEA

施工／竜門園 齋藤千明、泉ボタニカルガーデン 鎌田秀夫、
高橋造園研究所 高橋貞逸



■日比谷公園ガーデニングショー 2005

平成17年10月14日～22日

【東京都知事賞】(有)グリーンデザイン（東京都）

作品タイトル「水・音と光のオアシス」



■第22回全国都市緑化ふくおかフェア

平成17年9月9日～11月20日

【大賞 国土交通大臣賞】造園連福岡県支部

作品タイトル「私の隠れた家」



■第23回全国都市緑化おおさかフェア

平成18年3月25日～5月28日

【国土交通大臣賞】花と緑の架け橋グループ（株）大西東山造園・関西植木(株)・(株)三芳園 | 作品タイトル「自然と心をつつめなおす和みの庭」



■第10回国際バラとガーデニングショウ

平成20年5月14日～19日

【ガーデン部門サイズB 優秀賞】(有)たかはし園芸 (東京都)

作品タイトル「庭に暮らす」



■第7回日比谷公園ガーデニングショー 2009

平成21年10月24日～11月1日

【ベランダガーデン部門東京都知事賞】(株)大場造園 (東京都)

作品タイトル「月見の庭」



■東京インターナショナルフラワー&ガーデンショー 2010

平成22年4月17日～25日 立川市・国営昭和記念公園

【ショーガーデン部門大賞 ベスト・オブ・ショーガーデン】

小杉造園(株) 小杉左岐 (東京都) 作品タイトル「きざしの庭」



■東京インターナショナルフラワー&ガーデンショー 2010

平成 22 年 4 月 17 日～ 25 日
立川市・国営昭和記念公園
【ショーガーデン部門金賞】
(有)坂本造園 坂本利男（山口県）
作品タイトル
「着物の粋を反映した庭 庭を着る」



■東京インターナショナルフラワー&ガーデンショー 2010

平成 22 年 4 月 17 日～ 25 日
立川市・国営昭和記念公園
【シティガーデン部門金賞】
(株)マサミガーデン 吉村徹（京都府）
作品タイトル
「バンブー物語～維新の夜～」



■東京インターナショナルフラワー&ガーデンショー 2010

平成 22 年 4 月 17 日～ 25 日
立川市・国営昭和記念公園
【スモールガーデン部門大賞】
(有)たかはし園芸（東京都）
作品タイトル
「庭に暮らす（実りの予感）」



■第 27 回全国都市緑化ならフェア

平成 22 年 9 月 18 日～ 11 月 14 日

【特賞 国土交通大臣賞】古川庭樹園（大阪府）

作品タイトル「自然に透け込んだ暮らし」



■第 28 回全国都市緑化かごしまフェア

平成 23 年 3 月 18 日～ 5 月 22 日

【金賞 鹿児島県知事賞】石走造園(株) 石走豊稔（鹿児島県）

作品タイトル「自然との共生を楽しむ薩摩小庭園」



■丸の内仲通りガーデニングショー 2011

平成 23 年 10 月 21 日～ 30 日

【ガーデンジュエリー大賞】(株)近江庭園 寺下弘（滋賀県）

作品タイトル「『力』あふれる小さな庭」

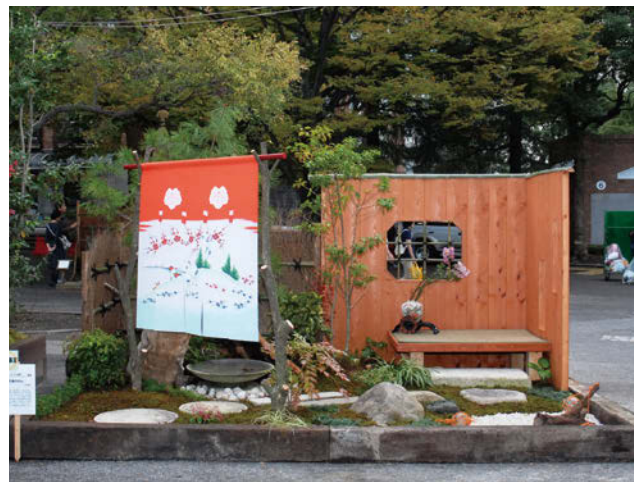


■日比谷公園ガーデニングショー 2011

平成 23 年 10 月 22 日～ 30 日

【東京都知事賞】武原造園 武原俊彦（石川県）

作品タイトル「花嫁のれん」

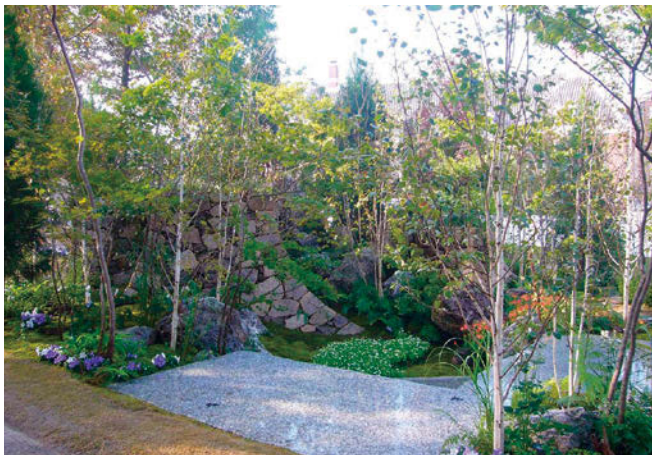


■第 3 回ガーデニングワールドカップフラワーショー 2012 in Japan

平成 24 年 9 月 29 日～ 10 月 8 日ハウステンボス内パレスハウステンボス

【ショーガーデン部門最優秀施工賞金賞】寺下弘（滋賀県・(株)近江庭園）

作品タイトル「平和の芽が育つ庭」



■第 29 回全国都市緑化フェア TOKYO

平成 24 年

【最優秀賞／（財）都市緑化機構会長賞】GREEN ART（東京都）

作品タイトル「温故知新」



定期活動

■造園感謝祭

造園連が設立された3年目の昭和51年より始まった造園感謝祭は、日々の仕事で恩恵を受けている樹木、自然に対する感謝の心を捧げ、造園業の健全な発展と緑豊かな国土を願い、全国の造園人が感謝を込めて神宮神苑に植樹し、手入れ奉仕を行う全国版の草木感謝祭として、造園連における伝統行事となった【表1】。

平成18年2月には記念すべき第30回を迎え、造園連本部が当番、造園連青年部が実行主体となり、アカマツを献木した。また平成20年には当番支部が一巡したことを機に「造園感謝祭記念誌」を発行し、32年にわたり続けられた行事を写真とともに振り返った。

長年にわたり全国から植栽された献木は、神宮の神苑に根を張り、四季折々に豊かな表情を見せ、訪れる参拝者を楽しませている。

■青年部

造園連青年部は造園業に従事する青年の団結を旨とし、相互の連絡協調を図るとともに、造園緑化産業の健全な発展に寄与する事を目的に、昭和54年に東京・自由民主会館で設立総会が行われ発足した。部員相互の技術技能の研鑽及び知識向上のための各種講習会や研修会を開催するほか、「庭の日」の広報活動、造園連と各支部活動への協力など活発な活動を行っている。

平成14年には全国都市緑化やまがたフェアに庭園を出展したほか、平成16年の浜名湖花博庭園出展、平成19年の技能五輪国際大会「技能の館」への庭園出展に際しては、研修生として全国から青年部員が参加し、技術技能の継承と研修生・指導員との昼夜を問わない交流が行われた。

平成22年には創立30周年を迎え、改めて部員相互の交流を通じた横のつながり（ネットワーク）の構築を強固にすることが確認された。

【青年部構成支部】（23支部）

青森県、宮城県、山形県、茨城県、東京都、神奈川県、長野県、富山県、福井県、京都府、大阪府、奈良県、鳥取県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、沖縄県

■日本造園アカデミー会議

日本造園アカデミー会議は、大学や専門教育機関などの「学界」、国土交通省や各地方自治体などの公園緑地に関する部局などの「官界」、生産・販売・施工を含めた「業界」の3分野を集結して造園に関するあらゆる情報の交換と研鑽を重ねることを目的に、昭和51年初代議長に林学博士の故・上原敬二先生を迎えて発足した。

会報誌「アカデミー会報」の発行のほか、恒例となっている「造園シンポジウム」では造園に携わる産官学の参加者が一堂に会して今後の造園について様々な視点を探り、多彩な講師による講演やパネルディスカッション、参加者による意見交換などが行われ、業界全体のレベルアップを図っている。

近年は、東日本大震災を受けて、造園による減災や被災地復興を改めて考えるテーマを設けたほか、ライフスタイルや地球環境の変化、高齢化社会などを見据えた庭づくりを考察する内容で開催している。

【造園シンポジウム】

平成14年 第25回山形県山形市

『技能の継承と評価を考える』

平成15年 第26回東京都渋谷区

『技能の継承と評価を考えるⅡ』

平成16年 第27回愛知県瀬戸市

『大規模造園と技能を考える—愛知万博の現場から』

平成17年 第28回東京都中野区

『造園の理解者を増やすために一次代を担う若者に向けて』

平成18年 第29回京都府京都市

『現代庭園に今必要な伝統技法を考える』

平成19年 第30回兵庫県神戸市

『人にやさしい庭づくりを考える—ユーザーの視点にたって』

平成20年 第31回山口県山口市

『人にやさしい庭づくりを考えるⅡ—作り手の視点にたって』

平成21年 第32回宮城県仙台市

『人にやさしい庭づくりを考えるⅢ—高齢化時代の庭の管理考える』

平成22年 第33回富山県富山市

『造園の魅力を伝える—新たな造園の可能性—生き物のちからと造園を考える』

平成23年 第34回大阪府大阪市

『造園のちから—震災復興の知恵と工夫』

平成24年 第35回香川県高松市

『造園と水—自然の恵みと有効活用を考える』

	奉納日	当番県	献木樹種	参加人数
第1回	昭和52年3月29日	熊本県支部	クスノキ	153名
第2回	昭和53年3月28日	岩手県支部	シダレカツラ	81名
第3回	昭和54年2月22日	東京都支部	ケヤキ	139名
第4回	昭和55年2月20日	和歌山県支部	ウバメガシ	142名
第5回	昭和56年2月21日	群馬県支部	クロマツ	140名
第6回	昭和57年2月20日	静岡県支部	キンモクセイ	157名
第7回	昭和58年2月21日	山形県支部	サクランボ2種	197名
第8回	昭和59年2月18日	福岡県支部	ウメ	245名
第9回	昭和60年2月16日	福島県支部	吾妻五葉松	230名
第10回	昭和61年2月22日	山梨県支部	ヤマモミジ	280名
第11回	昭和62年2月21日	青森県支部	ヒノキアスナロ	240名
第12回	昭和63年2月20日	岐阜県支部	モッコク	327名
第13回	平成元年3月4日	広島県支部	モミジ	316名
第14回	平成2年2月22日	宮城県支部	チャボヒバ	379名
第15回	平成3年2月22日	神奈川県支部	クロマツ	434名
第16回	平成4年2月21日	沖縄県支部	カンヒザクラ	366名
第17回	平成5年2月19日	佐賀県支部	サザンカ	544名
第18回	平成6年2月19日	高知県支部	トサミズキ	497名
第19回	平成7年2月24日	茨城県支部	ウメ	492名
第20回	平成8年2月23日	長野県支部	ヒノキ	618名
第21回	平成9年2月21日	石川県支部	ツバキ（西王母）	569名
第22回	平成10年2月20日	大分県支部	豊後ウメ	524名
第23回	平成11年2月19日	長崎県支部	イヌマキ	480名
第24回	平成12年2月19日	富山県支部	立山スギ	604名
第25回	平成13年2月23日	鳥取県支部	クロマツ	450名
第26回	平成14年2月22日	埼玉県支部	ケヤキ	438名
第27回	平成15年2月21日	徳島県支部	ヤマモモ	520名
第28回	平成16年2月20日	京都府支部	北山台杉、シダレザクラ	600名
第29回	平成17年2月18日	山口県支部	アカマツ	452名
第30回	平成18年2月24日	本部	アカマツ	436名
第31回	平成19年2月23日	4支部合同 (大阪・滋賀・兵庫・奈良)	アカマツ	440名
第32回	平成20年2月22日	9支部合同 (北海道・秋田・栃木・新潟・ 福井・愛知・島根・香川・愛媛)	シダレザクラ	441名
第33回	平成21年2月20日	青森県支部	南部アカマツ	417名
第34回	平成22年2月19日	九州ブロック	アカマツ	598名
第35回	平成23年2月25日	関東ブロック	ウメ（思いのまま）	545名
第36回	平成24年2月24日	宮城県支部	ヤエベニシダレザクラ	577名
第37回	平成25年2月22日	四国ブロック	アカマツ	505名

【表1】



平成23年度宮城県支部献木ヤエベニシダレザクラ



平成24年度四国ブロックアカマツの献木



造園感謝祭記念誌
平成20年10月30日発行



青年部・全国都市緑化やまがたフェア庭園施工（平成14年）



造園シンポジウム（平成24年度高松）



青年部・「庭の日」広報活動（平成22年）



青年部・創立30周年記念式典（平成22年）



青年部・手ぬぐい

年表

■ 1973 年（昭和 48 年）

- 8 月／全国の代表による、第 1 回全国組織設立準備委員会が開催される
- 9 月／各地の代表 35 名により、造園全国団体設立世話人会を自由民主党本部で開催
- 10 月／造園連新聞創刊（毎月 1 回発行）
- 11 月／日本造園組合連合会設立、初代理事長に長崎孫好氏が就任（会場／自由民主会館）
- 12 月／造園施工必携が完成

■ 1974 年（昭和 49 年）

- 2 月／造園技能士・造園施工管理技士（予定）の格付について自民党に要望
- 6 月／労働・建設両省より社団法人許可
◎（社）日本造園組合連合会、設立総会開催（会場／自由民主会館）
- 9 月／第 1 回理事会開催
- 11 月／第 1 回評議員・推進委員合同会議及び技能検定トレーナー講習会実施

■ 1975 年（昭和 50 年）

- 3 月／造園施工管理技士制度の早期実現について建設省に要望
◎造園連新聞第三種郵便物の許可を受ける。昭和 50 年 4 月より 3 回（1 日・11 日・21 日）発行、現在に至る
- 10 月／海外研修として初めてヨーロッパ諸国の造園事情を視察（13 日～24 日）
◎支部長・事務担当者研修会開催（静岡県熱海市・暖海荘）
- 12 月／造園緑化対策国会議員連盟発足

■ 1976 年（昭和 51 年）

- 2 月／第 2 回ヨーロッパ海外研修視察
- 3 月／（財）建設業振興基金への拠出団体となる
- 4 月／みどり共済制度が発足
- 5 月／第 3 回通常総会で施工管理技術検定の「特別講習」の撤回を決議
- 10 月／日本造園アカデミー会議設立（初代議長に上原敬二博士）

■ 1977 年（昭和 52 年）

- 3 月／第 1 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）実施
- 6 月／技能検定実技新課題の説明会開く（会場／中野サンプラザ）
◎経営対策、技術技能対策、福祉対策、広報対策、組織対策の 5 委員会発足
- 8 月／日本造園アカデミー会議機関誌（アカデミー会報）第 1 号発刊
- 9 月／技能士の地位向上について労働省に陳情
- 10 月／分離発注の強化について労働・建設両省に陳情

■ 1978 年（昭和 53 年）

- 1 月／造園連青年部設立に向けて全国青年部代表者会議開く（会場／霞ヶ関ビル）
- 2 月／植物特許と新品種保護の樹木生産者会議
- 3 月／第 2 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、岩手県支部が「シダレカツラ」献木
- 8 月／第 1 回造園教育シンポジウム（会場／伊豆・天城高原）
- 9 月／枯補償に対する陳情（建設省等関係省庁へ）
- 10 月／第 1 回造園コンクール全国大会、庭づくり競技大会開幕（会場／東京・宇宙博覧会施設）
◎造園連創立 5 周年記念式典・造園コンクールの全国大会表彰式

■ 1979 年（昭和 54 年）

- 2 月／第 3 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、東京都支部が「ケヤキ」を献木
- 3 月／事務局長会議。事務処理規程の統一化を図る
- 5 月／第 6 回通常総会。新理事長に安藤吉蔵氏
- 8 月／「造園連青年部」設立総会開く
◎第 2 回造園教育シンポジウム（会場／静岡県朝霧高原・東農大附属農場）
- 12 月／「庭師の知恵袋」発行、日本図書館協会選定図書となる

■ 1980 年（昭和 55 年）

- 2 月／第 4 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、和歌山県支部が「ウバメガシ」を献木
- 5 月／第 7 回通常総会（会場／新宿・安田火災海上ビル）。終了後にはモンテカルロ国際サーカス観覧
- 8 月／第 3 回造園教育シンポジウム（会場／比叡山延暦寺会館）。テーマ「造園における表現の技術」
◎第 30 回理事会を開催し、生垣促進運動を決議（会場／静岡県三島市）

■ 1981 年（昭和 56 年）

- 2 月／第 5 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、群馬県支部が「クロマツ」を献木
- 5 月／第 8 回通常総会で（財）都市緑化基金へ 1000 万円（5 年間）の拠出を決定
- 8 月／第 4 回造園教育シンポジウム（会場／日光市・幸の湖荘）。テーマは「造園における設計図書と施工の表現技術」
- 10 月／上原敬二先生逝去（東京農大名誉教授、日本造園アカデミー会議議長）
- 12 月／建設業経理事務士認定講習会始まる
◎日本造園アカデミー会議運営委員会で岡崎文彬氏（京大名誉教授）が議長に就任

■ 1982 年（昭和 57 年）

- 2 月／海外造園事情視察研修で中国を訪問（桂林、広州、香港）
◎第 6 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、静岡県支部が「キンモクセイ」を献木
- 7 月／長崎大水害。全国の組合員から義援金
- 8 月／第 5 回造園教育シンポジウム（会場／岩手県平泉・金鶏荘）。テーマは「維持管理」

■ 1983 年（昭和 58 年）

- 1 月／海外造園事情視察研修で華中往訪（蘇州、杭州、上海）
- 2 月／第 7 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、山形県支部が「サクランボ」を献木
- 5 月／創立 10 周年記念式典並びに第 10 回通常総会開かれる、新理事長に阿島七郎氏
- 6 月／海外造園事情視察研修で緑のオリンピックとヨーロッパの庭園を視察
- 7 月／島根県西部に集中豪雨（全国より義援金）
- 9 月／造園連事務所が神田小川町に移転
- 11 月／「造園工事業の実態調査」実施
- 12 月／故上原敬二博士の「この目で見た造園発達史」刊行

■ 1984 年（昭和 59 年）

- 2 月／第 8 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、福岡県支部が「ウメ」を献木
- 3 月／造園連初代理事長、長崎孫好氏逝去
- 6 月／技能検定実技課題改訂にともなう説明会開く（熱海）
- 8 月／造園シンポジウム（会場／長野県下諏訪）。テーマ「自然と庭園」
- 9 月／海外造園事情視察研修で華北往訪（北京、承德）
- 10 月／技能尊重などで建設省と懇談

■ 1985 年（昭和 60 年）

- 1 月／第 1 回写真コンクールの入選決まる（最優秀賞は東京の小玉信一氏）
- 2 月／第 9 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、福島県支部が「吾妻五葉松」を献木
- 5 月／「庭園設計表現コンクール実行委員会」を開催（青年部）
- 8 月／造園シンポジウム（会場／和歌山県高野山）。テーマは「日本庭園技法を考える－国際的視野から」
- 10 月／秋の園遊会に造園連初の招待（岐阜の松田松次郎夫妻）

■ 1986 年（昭和 61 年）

- 1 月／海外造園事情視察研修で華南往訪（昆明、石林、桂林）
 - ◎造園連青年部、海外造園事情視察研修
 - ◎日本造園アカデミー会議。新議長に澤藤雅也氏（岩手大教授）。岡崎文彬氏は名誉議長に
- 2 月／第 10 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、山梨県支部が「ヤマモミジ」を献木
- 3 月／「庭師の勘どころ」（講談社）を発行
- 5 月／庭園設計表現コンクール入賞者決まる
 - ◎造園連会計テキストの研究開発始める
- 8 月／第 1 回技能士向上研修専門委員会開催
 - ◎造園シンポジウム（会場／静岡県浜松市）。テーマは「これからの住宅庭園の方向」
- 10 月／第 1 回建設産業近代化促進団体協議会（建近協）開催
 - ◎（財）国際花と緑の博覧会協会の参与に阿島理事長就任

■ 1987 年（昭和 62 年）

- 1 月／海外造園事情視察研修でハワイ、オアフ両島を訪問、東西センター庭園等を見学研修
- 2 月／第 11 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、青森県支部が「ヒノキアスナロ」を献木
- 5 月／第 14 回通常総会。新理事長に豊田英次氏
- 6 月／豊田理事長、（財）国際花と緑の博覧会協会理事に就任
- 9 月／建設省に昭和 64 年版建築工事共通仕様書について改訂意見提出
 - ◎「造園業会計」開発研究会開く
 - ◎技術者の専任制について建設省と懇談
 - ◎雇用促進事業団より雇用改善で全国団体助成金（第 1 種）の認定を受ける
- 10 月／伊勢神宮より献木並びに神苑美化により顕彰を受ける
 - ◎自由民主党より友好団体として表彰される
- 11 月／「造園連役員経験者の集い」を開く（第 1 回）

■ 1988 年（昭和 63 年）

- 1 月／海外造園事情視察研修で華中往訪（上海、南京、無錫）
- 2 月／第 12 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、岐阜県支部が「モッコク」を献木
- 3 月／税制改革の対応について協議（建専協）
 - ◎技能士の制度的活用で、労働・建設両省等に陳情
 - ◎「住宅庭園の設計・積算講習」テキスト完成
- 5 月／第 15 回総会と共に創立 15 周年記念式典を開催（記念誌として「千樹萬幹」を発行）
- 7 月／花博への協力に向け第 1 回花博専門委員会を実施

- 8 月／造園シンポジウム（会場／福岡県太宰府市）
- 9 月／海外造園事情視察研修。レジャー博を中心にオーストラリアへ
- 10 月／大阪・鶴見緑地で第 2 回花博専門委員会
- 12 月／人材確保・資格制度で建設省と懇談

■ 1989 年（平成 1 年）

- 3 月／第 13 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、広島県支部が「モミジ」を献木
 - ◎花博専門委員会が山のエリアを視察
- 4 月／花博協会へ出展の仮申し込みを行う
- 5 月／第 2 回庭園設計表現コンクール審査・表彰
- 6 月／花博協会と出展参加契約を交わす
 - ◎「庭師の知恵袋」（講談社・ベストライフシリーズ）を発行
- 7 月／花博出展を具体化する各部会活動がスタート
- 8 月／造園シンポジウム（会場／島根県松江市）。テーマは「茶庭の技術と保存」。過去最高の 90 名が参加
- 9 月／花博研修の指導員打合せ会（第 1 回）
- 11 月／花博出展地の測量及び指導員打合せを実施

■ 1990 年（平成 2 年）

- 1 月／花博出展研修会がスタート（第 1 期～第 6 期、75 名の研修生で 3 月まで実施）
- 2 月／第 14 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、宮城県支部が「チャボヒバ」を献木
- 3 月／花博出展庭園が完成（19 日にテープカット）
- 4 月／花博が開幕し出展庭園で野点を行う
- 5 月／第 17 回総会を大阪市で開催し花博会場の見学も実施
- 7 月／花博コンテストで全種目入賞
- 8 月／造園シンポジウム（会場／滋賀県大津市）。テーマは「花博を考える」
- 9 月／花博出展庭園に名誉賞
 - ◎花博が閉幕し、引き続き撤去が作業が行われる
 - ◎「庭木の剪定と整姿小百科」（日本文芸社）を発行

■ 1991 年（平成 3 年）

- 2 月／第 15 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、神奈川県支部が「クロマツ」を献木
- 3 月／「プロが教える小さな庭づくり」（講談社）を発行
- 5 月／求人・会社案内用リーフレットが完成し第 18 回総会で配布
- 7 月／建専協総会で豊田理事長が幹事に
 - ◎第 82 回理事会で、雲仙岳噴火による被災者の義援金カンパを決める
- 8 月／造園シンポジウム（会場／新潟市）、テーマは「地方の庭づくり」
- 11 月／各委員会が創立 20 周年に向けた取り組みを開始

■ 1992 年（平成 4 年）

- 2 月／第 16 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、沖縄県支部が「カンヒザクラ」を献木
- 6 月／フロリアード 92 を中心にオランダ、イギリスへ海外視察研修
 - ◎日本造園アカデミー会議運営委員会で新田伸三氏が新議長に
- 7 月／第 87 回理事会で、委員会活動のより効果的な運営に向けプロジェクトチームを発足
- 8 月／造園連紹介・加入促進リーフレットが完成
 - ◎造園シンポジウム（会場／東京）テーマは「これからの庭園と照明」
- 10 月／技能検定 1 級課題の改訂に向けトライアルを実施

■ 1993 年（平成 5 年）

- 1 月／造園連新聞「新年号」初のカラー印刷
 - ◎第 3 回庭園設計表現コンクール受付始まる（5 月審査、表彰）
- 2 月／造園連新聞が 600 号に
 - ◎第 17 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、佐賀県支部が「サ

- ザンカ」を献木、過去最多の 560 名が参加
- 3 月／創立 20 周年を記念し、伊勢神宮表参道へアカマツ 2 本を献木
◎第 90 回理事会の席上、釧路沖地震に対して北海道支部へ御見舞を贈呈
- 5 月／第 20 回通常総会、創立 20 周年記念式典が 400 名の参加で開催。新理事長に及川栄二氏
- 6 月／技能士の評価向上を自由民主党に要望
- 8 月／造園シンポジウム（会場／大阪）、テーマは「住宅庭園の花と緑のデザイン」

■ 1994 年（平成 6 年）

- 2 月／第 18 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、高知県支部が「トサミズキ」を献木
- 3 月／経営事項審査の改善で技能士の評価向上を建設省に要請
- 6 月／カナダへ視察研修。42 名の参加で
- 8 月／造園シンポジウム（会場／仙台）テーマは「水の意匠と技法」
- 10 月／造園技法ビデオ完成
- 11 月／3 級技能検定用のテキスト・ビデオを発行

■ 1995 年（平成 7 年）

- 1 月／安藤吉蔵元理事長が逝去
- 2 月／阪神・淡路大震災の被災者への義援金を寄託（日本赤十字社本社へ）
◎第 19 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、茨城県支部が「ウメ」を献木
- 3 月／造園技法ビデオ第Ⅱ期 3 巻が完成
- 6 月／海外造園事情視察研修。41 名で米国西部へ
- 8 月／造園シンポジウム（会場／大分）テーマは「水の魅力とそのデザイン」
- 12 月／請負制の推進に向け講師研修会を開催

■ 1996 年（平成 8 年）

- 1 月／請負制普及に向け各地で講習会始まる
- 2 月／造園連会長・衆議院議員の大野明先生逝去
◎造園技法ビデオが職業訓練教材に認定
◎第 20 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、長野県支部が「ヒノキ」を献木、過去最多の 628 名が参加
- 5 月／造園連青年部による第 4 回庭園設計表現コンクール実施
- 6 月／41 名の参加でウィーン他へ海外視察研修
- 10 月／経営規模の実態に応じた「モデル就業規則」完成
◎一般愛好家向けに「庭木の剪定コツとタブー」庭師の知恵ことわざ辞典」（いずれも講談社）を発行

■ 1997 年（平成 9 年）

- 2 月／第 21 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、石川県支部が「ツバキ」を献木
- 4 月／造園工事業が「専門工事業者安全管理活動等促進事業」の対象業種に指定され委員を派遣
◎時短カレンダー完成。全組合員へ
- 5 月／第 24 回通常総会。新理事長に平野泰弘氏
- 7 月／第 1 回目の基幹技能者に係る運営委員会開く
- 8 月／造園シンポジウム（会場／広島）、テーマは「いま、求められている《にわ》」
◎日本造園アカデミー会議、新議長に池田二郎氏
- 9 月／造園連事務所が内神田サニービルへ移転
- 10 月／43 名の参加でニュージーランドへ海外研修

■ 1998 年（平成 10 年）

- 1 月／請負制の普及状況について実態調査実施
- 2 月／第 22 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、大分県支部が「ウメ」を献木。評論家の早坂茂三氏が特別講演
- 3 月／技能検定実技試験日の改善を労働省に陳情

- 4 月／基幹技能者の育成に向けて技能開発計画まとまる
- 5 月／第 25 回通常総会と併せ、創立 25 周年記念式典開く
- 6 月／24 名が参加し、北欧ノルウェー他へ視察研修
- 7 月／創立 25 周年を記念し「組合員名簿」完成
- 11 月／基幹技能者の第 1 回認定研修会の受付開始

■ 1999 年（平成 11 年）

- 1 月／基幹技能者認定研修、全国 6 会場で始まる
- 2 月／第 23 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、長崎県支部が「イヌマキ」を献木。気象評論家の福井敏夫氏が特別講演
- 3 月／基幹技能者の第 1 号 555 名を認定
- 4 月／一般向けのガーデニング図書「庭師が教える新しいガーデニング」（講談社）を発行
◎技能五輪カナダ大会出場選手選考会を実施
- 6 月／世界園芸博等の視察研修、35 名で中国へ
- 8 月／造園シンポジウム（会場／兵庫県神戸市）、テーマは「公開日本庭園」
- 9 月／労働基準法の改正を受け改訂版「就業規則」を発行
- 10 月／技能五輪全国大会造園競技始まる
- 11 月／技能五輪国際大会モントリオールへ初参加

■ 2000 年（平成 12 年）

- 1 月／造園連ホームページ開設
◎前年末に実施した剪定枝処理アンケート調査まとまる。60% が処理に困る
- 2 月／第 24 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、富山県支部が「立山スギ」を献木。女優の由美かおるさんが特別講演
- 3 月／「名人庭師とっておきの知恵袋」（講談社＋α 新書）を発行
◎組織拡大へ滋賀・大阪で新支部発足
- 4 月／21 世紀への行動計画「造園業将来ビジョン」まとまる
- 8 月／造園シンポジウム（会場／長野）、一般市民が初参加
- 9 月／設計・施工・管理をまとめた「茶庭マニュアル」発行
- 10 月／古賀誠・長勢甚遠両衆議院議員が顧問に
- 11 月／造園感謝祭の 25 周年を記念し伊勢神宮外宮へ手水鉢を献納
- 12 月／「造園人心得集」（マナー集）発行

■ 2001 年（平成 13 年）

- 2 月／第 25 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、鳥取県支部が「クロマツ」を献木
- 4 月／一般向け造園紹介リーフレット作成
- 5 月／第 28 回通常総会。新理事長に吉村隆一氏
- 6 月／造園連新聞の充実に向け、文字を大きく増ページに
◎海外視察研修、40 名の参加でイタリア・スイスへ
- 8 月／造園技法ビデオ第 2 段「庭づくり基本と応用」が完成
◎及川栄二元理事長逝去
- 9 月／技能五輪国際大会、韓国ソウル市で開催。安斎・安澤組 7 位に
- 10 月／兵庫県支部が発足
◎第 39 回技能五輪全国大会。福島県で 32 名が出場
- 11 月／阿島七郎元理事長逝去

■ 2002 年（平成 14 年）

- 1 月／セットメニュー講習始まる
◎「造園新カタカナ用語辞典」発行
- 2 月／第 26 回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、埼玉県支部が「ケヤキ」を献木
- 4 月／最新版「加入促進リーフレット」発行
- 5 月／建設業経営革新の一環として「リガーデンのすすめ」ポスター、リーフレット等を配布
◎第 29 回通常総会で「庭の日」（4 月 28 日）の制定など 30 周年記念事業を決定
◎造園連青年部が全国都市緑化やまがたフェアへ庭園出展
- 6 月／26 名の参加でスペインに海外研修

- 7月／5年ぶりに造園実態調査アンケート、全組合員に実施
◎全国都市緑化やまがたフェアの視察を含め、山形市で合同会議
- 8月／「名人庭師剪定・整姿の知恵袋」（講談社＋α新書）を発行
- 10月／第40回技能五輪全国大会、熊本県で17組が参加
- 11月／浜名湖花博出展庭園の設計コンペ募集開始

■ 2003 年（平成 15 年）

- 1月／造園人マナービデオ「これだけは知っておこう～造園人としての心得」完成
- 2月／「庭の日」PR用ポスター、のぼり、ステッカー完成
◎浜名湖花博出展庭園設計コンペ審査会。全国から44作品応募
◎第27回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、徳島県支部が「ヤマモモ」を献木。放送作家の永六輔氏が特別講演
- 3月／造園技能士PR小冊子「緑化工事の施工・維持管理のエキスパート造園技能士」完成
- 4月／全国各地で「庭の日」のPR活動を実施。初めての「庭の日」を迎える
- 5月／造園連30周年記念誌「千樹萬幹－伝統の継承と創造－」完成
◎第30回通常総会、創立30周年記念式典が400名の参加で開催。
- 6月／技能五輪国際大会、スイス・ザンクトガレンで開催。杉岡・赤井組8位に
◎23名の参加でスイスへ海外研修
- 8月／造園シンポジウム（会場／東京都）、テーマは「造園熟練技能の継承と評価を考えるⅡ」
- 9月／技能検定受験資格の改正。次年度より受験資格短縮へ
- 10月／第41回技能五輪全国大会、新潟県で35名が参加
- 11月／浜名湖花博出展研修会がスタート（第1期～第3期、44名の研修生が参加）
◎造園技能検定功労団体として造園連が厚生労働大臣より表彰

■ 2004 年（平成 16 年）

- 1月／造園連ホームページで全国の組合員名簿を公開
- 2月／第28回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、京都府支部が「シダレザクラ、北山台スギ」を献木。女優の夏樹陽子さんが特別講演
- 3月／浜名湖花博出展庭園の仕上げ工事を行う。24日に庭園が完成
◎造園の技をわかりやすく解説した「庭師のてほどき」発行
- 4月／浜名湖花博が開幕（8日）。国際コンテストで「国際名誉賞」の他、部門賞も多数受賞。出展庭園前で「庭の日」のPRを行う
- 5月／経営及び提案のヒント事例「これからの造園業～経営のヒント～」発行
- 8月／造園シンポジウム（会場／愛知県瀬戸市）。テーマは「大規模造園と技能を考える」
- 9月／19名の参加でオーストラリア・タスマニアへ海外研修
- 10月／浜名湖花博が閉幕し、造園連出展庭園が国際コンテストで最高賞の「パシフィックフローラ大賞一席」を受賞
◎第42回技能五輪全国大会、岩手県で19組が参加
◎造園連事務所が神田小川町マツシタビルに移転
- 11月／第148回理事会で新潟中越地震による被災組合員へ救援見舞金の協力を決定
- 12月／全国より集まった救援見舞金を新潟県支部に贈呈

■ 2005 年（平成 17 年）

- 2月／第29回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、山口県支部が「アカマツ」を献木。NHKディレクターの榎戸崇泰氏が特別講演
- 3月／人材育成報告書「造園業の人材育成と経営」を発行
- 5月／第32回通常総会。新理事長に高取忠彦氏
◎技能五輪国際大会、フィンランド・ヘルシンキ市で開催。前山・小林組8位に
◎10名の参加でフィンランド、ドイツへ海外研修

- 8月／造園シンポジウム（会場／東京都中野区）、テーマは「造園の理解者を増やすために」
- 10月／一般庭園愛好家向け「ベランダで楽しむ『庭』づくり」「もう失敗しない「小さな庭」づくり」（いずれも河出書房新社）を発行
◎提案参考資料「小庭園プラン集Ⅰ」を発行
◎第43回技能五輪全国大会、山口県で40名が参加
- 12月／技能教材「浜名湖花博DVD、出展報告書」が完成

■ 2006 年（平成 18 年）

- 1月／提案用資料「リ・ガーデンリーフレット」を発行
- 2月／第30回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、造園連本部、造園連青年部が「アカマツ」を献木。政治評論家の三宅久之氏が特別講演
- 4月／庭の効用リーフレット「庭から始まるコミュニケーション」を発行
- 5月／農薬・ポジティブリスト制度施行
- 6月／28名の参加でカナダへ海外研修
- 8月／造園シンポジウム（会場／京都府京都市）、テーマは「現代庭園に今必要な伝統技法を考える」
- 10月／緑の効用パンフレット「緑のチカラ」を発行
◎造園連「車両用ステッカー」が完成
◎第44回技能五輪全国大会、香川県で25組が参加
- 11月／造園連新聞が1000号到達へ（平成18年11月11・21日付）

■ 2007 年（平成 19 年）

- 1月／豊田英次元理事長逝去
- 2月／第31回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、大阪・滋賀・兵庫・奈良4支部が「アカマツ」を献木。ウクレレ漫談家の牧伸二氏が特別講演
- 3月／小庭園プラン集Ⅱ「プロと作るあなたのための庭40選」を発行
- 5月／「いま散布できる…農薬読本」を発行
- 6月／23名の参加でドイツ・ベルギーへ海外研修
- 8月／造園シンポジウム（会場／兵庫県神戸市）。テーマは「人にやさしい庭づくりを考える」
- 10月／高齢社会における庭づくり提案のヒント「元気が出る庭」パンフレット発行
- 11月／技能五輪国際大会、静岡県沼津市で開催。早乙女・渡邊組が造園職種初の金メダルに
◎技能五輪国際大会（静岡）「技能展示館」へ庭園と竹垣を出展。研修生として青年部員が10名参加

■ 2008 年（平成 20 年）

- 1月／造園入門者向け「はじめての庭木手入れ・剪定のコツ」（家の光協会）を発行
- 2月／第32回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、北海道・秋田・栃木・新潟・福井・愛知・島根・香川・愛媛9支部が「シダレザクラ」を献木。ギター漫談家の堺すすむ氏が特別講演
◎第45回技能五輪全国大会、東京都木場公園で22名が参加
◎一般庭園愛好家向け「庭いじりの楽しみとコツ」（淡交社）を発行
◎建設業法施行規則を改正、「登録基幹技能者制度」を創設。経審加点へ
- 3月／技能五輪国際大会（静岡）への貢献により厚生労働大臣感謝状
- 5月／第35回通常総会、創立35周年事業功労者表彰の実施
- 6月／地球温暖化防止に貢献する造園業PRポスター「100年先の、地球のために」完成
◎18名の参加で東欧スロベニア、クロアチアへ海外研修
- 7月／「登録造園基幹技能者」新制度がスタート
- 8月／造園シンポジウム（会場／山口県山口市）。テーマは「人にやさしい庭づくりを考えるⅡ」
- 9月／造園連ホームページを刷新。新コーナー「庭を楽しもう」を開設

10月／32年間の歩みを綴る「造園感謝祭記念誌」を発行
11月／第46回技能五輪全国大会、千葉県で13組が参加
12月／一般庭園愛好家向け「ビジュアル版庭師の知恵袋」（講談社）を発行

■2009年（平成21年）

1月／都市緑化おかやまフェア出展庭園研修会第1期施工。28名が参加
2月／第33回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、青森県支部が「南部アカマツ」を献木。落語家の立川らく朝氏が特別講演
◎造園連の愛称が決定。（ジャパン庭園マイスターズ）
3月／都市緑化おかやまフェア出展庭園研修会第2期施工。30名が参加
◎庭園アドバイザー研修会トライアル実施
4月／厚生労働省ものづくり立国推進事業を企画コンペで初めて受託
5月／第36回通常総会。新理事長に白井昇氏
8月／造園シンポジウム（会場／宮城県仙台市）。テーマは「人にやさしい庭づくりを考えるⅢ」
◎造園連の愛称「ジャパン庭園マイスターズ」が登録商標に
9月／技能五輪国際大会、カナダ・カルガリーで開催。石井・白石組取組賞に
◎一般庭園愛好家向け「ポケット版庭師の知恵袋」（講談社＋α文庫）を発行
10月／第47回技能五輪全国大会、茨城県で24名が参加
11月／29名の参加でニュージーランドへ海外研修

■2010年（平成22年）

1月／次世代の指導者を養成する「技能検定指導員養成講習会」を開催
2月／造園業の安全標語決定「危険の芽 予知して摘み取る 庭のプロ」
◎第34回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、九州ブロック8支部が「アカマツ」を献木。建築家の池田武邦氏が特別講演
3月／造園連ホームページへ技能士活用状況データベースをアップほか、各種提案型営業資料を作成
◎一般庭園愛好家向け「ポケット版名人庭師果樹の知恵袋」（講談社＋α文庫）を発行
◎次世代フェスタへ庭園を出展（神奈川県横浜市）。技能五輪国際大会出場選手4名が参加
◎「高齢化社会における庭の維持管理」調査研究報告書を発行
5月／造園業の安全標語の縦幕完成
6月／19名の参加でアメリカへ海外研修
7月／造園連青年部第30回総会・創立30周年記念式典、250名出席。式典後、船上で祝賀会を開催
8月／全国都市緑化ならフェア出展庭園技能研修会第1期施工。15名の研修生が参加
◎造園シンポジウム（会場／富山県富山市）。テーマは「造園の魅力を伝える」
9月／全国都市緑化ならフェア出展庭園技能研修会第2期施工。
◎「庭園アドバイザー」認定研修会山口県で初の開催。23名が受講
10月／第48回技能五輪全国大会、神奈川県で18組が参加
◎都市緑化ならフェア会場で女性技能者3名による庭づくりデモンストレーション
11月／都市緑化ならフェア会場で竹垣、シュロバツタづくり実演・体験教室実施

■2011年（平成23年）

1月／第2回次世代フェスタで女性技能士4名による庭づくりの実演（東京都江東区）。
◎「技能検定指導員養成講習会」指導員候補者17名が参加
2月／「造園初級技能研修会」を開催。造園系高等学校教員40名（32校）参加

◎全国都市緑化かごしまフェア出展庭園研修会第1期施工。11名の研修生が参加
◎第35回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、関東ブロック7支部が「ウメ・思いのまま」を献木。東京都市大学・中部大学教授の涌井史郎氏が特別講演
3月／造園連主催「第1回全国造園技能競技大会」を山口県で開催。全国より20組60名が出場
◎全国都市緑化かごしまフェア出展庭園研修会第2期施工
◎三陸沖を震源とする「東日本大震災」発生
4月／第177回理事会で、東日本大震災による被災組合員への御見舞い金を東北ブロックへ贈呈
◎「造園初級技能の手引」を造園連ホームページへ公開
◎造園連イメージキャラクター「庭丸（にわまる）」に決定
7月／岡山県支部が発足
8月／造園シンポジウム（会場／大阪府大阪市）。テーマは「震災復興の知恵と工夫」
◎「人力による運搬組立て工法研修会」を開催。18名の研修生が参加
9月／「女性技能者育成に向けた技能向上研修会」を開催。女性技能者23名が参加
10月／技能五輪国際大会、イギリス・ロンドンで開催。藤崎・猪野組9位に
◎18名の参加で、チェコ・イギリスへ海外研修
◎日比谷公園ガーデニングショー「女性技能士による庭づくり実演」22名が参加
◎平野泰弘元理事長逝去
12月／第49回技能五輪全国大会、静岡県で31名が参加

■2012年（平成24年）

1月／鹿児島県支部が発足
2月／第36回造園感謝祭（伊勢神宮奉納行事）、宮城県支部が「ヤエベニシダレザクラ」を献木。シンガーソングライターのさとう宗幸氏が特別講演
◎「造園実習指導力向上研修会」（静岡・大阪・山口の3会場）で開催。造園関連の高校、専門学校、大学等の教員60名が参加
◎ものづくり大航海フェア庭園出展（兵庫県神戸市）。技能五輪メダリスト4名参加
3月／宮城県の仮設住宅に庭を寄贈（仙台市若林区、東松島市の2ヶ所）。21名の作庭ボランティアが参加
◎「人力による運搬組立て工法の手引」「造園工具ガイドブック」を発行。造園連ホームページへ公開
◎「石積みの技法」DVDを発行
5月／第39回通常総会、一般社団法人への移行に向けた定款変更案を承認
6月／「緑のチカラ」パンフレット発行
7月／23名の参加で北海道へ視察研修
◎長野県栄村の仮設住宅等へ花壇等を寄贈。ボランティア40名が参加
◎高齢者雇用・活用促進に向けて全組合員へアンケート調査を実施
8月／造園シンポジウム（会場／香川県高松市）。テーマは「造園と水」
9月／「技を生かす庭づくり塾」（福島県）を開催。研修生27名が参加
10月／造園連主催「第2回全国造園技能競技大会」を長野県で開催。全国より13組26名が出場
◎第50回技能五輪全国大会、長野県で19組が参加
◎「技を生かす庭づくり塾」（東京都・富山県）を開催。
◎一般社団法人への移行に向けて申請書類を公益等認定委員会へ提出

あとがき

ここに創立40周年を記念して、造園連の様々な取り組みをまとめた記念誌「技と人をつないで～庭～未来へ」を発刊することができました。

競技大会、庭園出展、技能五輪、技能検定、基幹技能者から、庭の日、リガーデン、庭園アドバイザー研修等にいたるまで、特に最近10年間の造園連事業を中心にとりまとめました。いずれも組合員の皆様の声をもとに企画され、実現へと至った事業です。伝統を継承しつつ、常に新しい事業に挑み、造園業界を牽引し続けてきた造園連の軌跡であり、今の仕事に役立ち、さらに未来への架け橋となる内容が本書の

中に凝縮されていると確信しています。

記念誌の作成にあたりましては、日頃造園連にご指導頂いている皆様からご寄稿を賜わるとともに、造園連役員のご協力を頂きながら編集作業が行われました。心から御礼と感謝を申し上げます。また株式会社マルモ出版の小林様をはじめ皆様方には格別のお力添えを賜わり誠にありがとうございました。

この記念誌が全国の組合員並びに関係者の皆様の心の絆となり、未来にむけての礎になればと心より願っております。

平成 25 年 5 月
企画・事業委員会

《企画・編集》

企画・事業委員会

【委員長】 荻原博行

【副委員長】 松隈邦博

【委員】 小川英武、小嶋康敬

【専門委員】 矢藤清光、内田由紀子、小沼康子、阿部浩章

平成 23・24 年度役員

【理事長】 白井 昇

【副理事長】 谷尾喜次、齋藤悦郎、宇田川辰彦、荻原博行、藤倉榮之

【専務理事】 坂本裕彰

【常務理事】 高橋善和、高橋幸雄、高尾宗克

【理事】 浅田憲一、阿部伍朗、井上花子、内海一富、沖津昭治、岡部敏雄、磯野進吾、山口 明、小川英武、櫻井貞夫、井上剛宏、村田文男、金子 実、深見静雄、山岡秀樹、松隈邦博、小嶋康敬、早瀬栄之、長谷川査利、寺下 弘、沖島和夫、今田正廣、北山安夫、廣澤清隆、野村 脩、土井直紀、阿部泰明、村川辰己、内藤勝美

【監事】 出塚清治、武田篤夫

【事務局・スタッフ】 酒井博之、岩間 陽、内田光一郎、永井綾香、三澤泰生

創立 40 周年記念誌
伝統の継承と創造

技と人をつないで～庭～未来へ

2013 年 5 月 24 日発行

発行／一般社団法人日本造園組合連合会
制作／(株)マルモ出版
印刷・製本／(株)ローヤル企画



Landscape Gardening